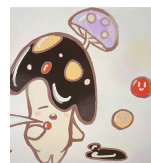


神小だより 第2号



特色ある取組等(神領小学校H.P.)

学校教育目標「夢と志にあふれ、心豊かにたくましく生きる子どもを育てる」

6月1日は「電波の日」。国内の電波塔として、東京タワーから東京スカイツリーに、移行されてから約十年が経ちました。東京タワー(333m)より、300メートルも高いスカイツリー(634m)がそびえ立つ姿に感動するとともに、日本の建築技術の凄さに感服です。634mもの建造物をどのように支えているか不思議でたまりません。その秘密は、地中に埋もれた見えない磐石な「根っこ」にあるとのこと。また、じっくり調べてみます。

「根っこ」つながりで、相田みつをさんの詩「夢はでっかく、根は深く」が思い出されます。この詩を読むたびに、「大きな夢を実現したいのであれば、根が深くなければならない。反対に根が深くなればなるほど、夢も大きくなる」と勇気づけられます。

総会で学校経営についてご説明しましたとおり、「学校教育目標」を踏まえ「子どもたちの将来を見据えた教育」の実現を図るために、基礎基本の力、基本的生活習慣の定着に、一生懸命努めてまいります。今後とも本校教育へのご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。



人生100年時代 「自学自習の習慣化」を図り、生きる力を身に付ける



「人生100年時代」とは、世界的にもベストセラーとなった『LIFE SHIFT』の著者であるリンダ・グラットン氏が提唱した言葉です。同書で、先進国で生まれる子供の2人に1人が100歳以上生きる「人生100年時代」が到来すると予測しており、100年間生きることを前提とした従来とは異なる生活設計を立てていくことの必要性が述べられています。

日本も例外ではなく「2007年生まれの子どもの半数が100歳まで生き得る」と言われています。では、100歳まで生きる子供たちに「必要な力は何か」。そして、その力を身に付けるために「必要な教育は何か」を考え、教育に組み込んでいかなければなりません。人格形成の基礎を付ける小学校の段階で、「自学自習の習慣」を身に

付けることは、今後の「生きる力」の一つである「学力」の上伸につながる強力な原動力となります。これを小学生の時代に身に付けることができた子は、中学校、高等学校へと進学をしていく過程で大きな強みとなり、可能性が広がります。

子供が自分から勉強する習慣を付けるためには、『褒め』ながら『固定化』することが大切です。「勉強しなさい」と言われて仕方なくするのはなく、子供が自ら勉強をする「自学自習の習慣」を身に付けるには、いくつかの手立てがあります。そのキーワードは「褒める」「固定化する」です。

学校から出される毎日の宿題を、自学自習トレーニングのきっかけにします。例えば、「下校⇒決まった場所で宿題の準備をする。⇒時間を決めて宿題に取り組む⇒丁寧に取り組んでいるか家族に確認してもらう(特に低・中学年)」。それができれば大いに褒めて、リズムの定着、習慣化するまで根気強く繰り返す。やる気を継続するために、成果を可視化するためのチェックリストを作りシールを貼ったりするのも一つの方法です。

さらに、睡眠と食事の時間を固定化します。自学自習を習慣化する上で大切なことは、規則正しい生活習慣です。加えて、ゲームやSNS等、メディアを使用する時間も1時間以内(絶対に1時間を超さない)と固定化すれば、必然的に勉強のサイクルも固定化されます。

日々のお仕事でお忙しいとは思いますが、子供たちの生きる力を育むためにも、ご家庭のご理解とご協力を、是非ともお願いいたします。

